

卒業生インタビュー 1～10期



明日見 学さん

卒業年／平成4年(第1期)

勤務先／三ッ輪運輸株式会社(釧路市)

第一営業部 外航課 課長

大学で様々な経験を積んで活力ある人間に

大学受験では、札幌や小樽の大学を受けたのですが全滅の結果で、唯一、釧路公立大学だけ合格することができました。おかげで第1期生という記念すべき卒業生となりました。開学当時の釧路公立大学は、道外からの学生も多く、関西から東北と様々な方言・イントネーションが飛び交っていて、物珍しさと刺激がありました。

大学では1期生がゆえに自由そのものでした。先輩がいなかったのも、自分たちの意思で何でもできたり、何かを作るにしても反対されたり、抵抗を受けるようなことはまったくありませんでした。当時は体育館もまだ建設中で、不便なところもありましたが、新設校ならではの経験をさせてもらいました。

また、4年間釧路市内の親元から通うことができたので、



卒業式の謝恩会にて(中央)

経済的な負担も少なく、その点では少しだけ親孝行できたかなと思います。

大学に受かったことで大いに羽を伸ばしたのは事実です。大学生になったら、いろいろとやりたいことがたくさんあって、まず中古車を買って、仲間とドライブに行きました。その勢いで十数人の仲間とドライブサークルをつくり、テニスをしたり、とにかく遊びに没頭した学生生活でした。

(遊びの)資金調達のため、様々なアルバイトをしていました。中でも接客業は楽しかったです。接客なんてという言葉は知りませんでしたが、笑顔、マナー、気配りなど、アルバイトを通じて学んだことは多かったです。ただし、学業が少しおろそかになった。もう少し、真面目に学業もやっておけばよかったですね。

現在は、主に、貿易の玄関口である釧路港にて、外国貨物の輸出入通関業務を行う外航課課長として三ッ輪運輸株式会社に勤務しています。相手先は、東京の船会社、商社等多数。12年間、釧路を離れ、東京支社、札幌支社と営業最前線で、得意先営業窓口として勤務させていただきました。その経験を生かし、釧路港利用促進を足掛かりに釧路の発展に少しでも寄与していきたいと思っています。

社会人になり、何が役に立つなんてわからないものです。勉強に打ち込むこともいいですが、学業以外にも、スポーツ、旅行、上下関係(先輩後輩)のコミュニティーなどいろいろと経験を積んで人間を磨き、バイタリティーのある社会人目指して、学生生活を大いに楽しんでください。



佐藤 公治さん

卒業年／平成6年(第3期)
勤務先／北海道日高振興局(浦河町)
産業振興部 林務課 係長

アイスホッケーとアルバイトを 両立した4年間

オホーツク・興部町出身の私が、釧路公立大学に進学したのは、高校の担任の薦めでした。開学したばかりの道内の国公立大学であったこと、また、パンフレットを見ると内容が魅力的で、それでビビッときました(笑)。新しい大学で学生数は少なかったですが、先輩・仲間、そして釧路の素晴らしい環境の中、充実した学生生活を過ごすことができ、とても満足しています。

在学中で特に思い出に残っていることは、氷都釧路でアイスホッケーに出会い、部活動に熱中したこと。部活動とアルバイトを両立しながら4年間続けられたことは、自分でもよく頑張ったと思います。

現在は、北海道職員として日高振興局林務課で働いています。ここでは北海道における「一般民有林」といわれる森林の山づくりや、保全に関する業務、また、木材産業の振興や森林組合等の育成指導などを担っております。現在は、係長としての立場上、常に先を見て、上下左右のコミュニケーションにより情報をキャッチし、積極的に組織を動かしていくことを心がけています。

大学での4年間は社会人になって役立つことが多くあります。それは、学業に限らず、サークル・ゼミ・アルバイトでの経験も然りです。社会人に比べて自由な時間を持つことができる今、興味を持ったらまずチャレンジしてみてください。様々な人との交流は、きっと将来の財産になります。そして母校を誇りに思い、母校への愛を忘れずにいてください。



沼田 和代さん(旧姓 佐藤)

卒業年／平成7年(第4期)
勤務先／日本生命保険相互会社
札幌支社 札幌法人市場営業部
支部長補佐

運命を感じ入学した大学で 素晴らしい仲間と出会えた

私は東北の出身で、センター試験直前まで釧路公立大学という名前すら知りませんでした(笑)。しかし、センター試験受験後、二次試験で挽回可能な点数配分の大学を探した中、当時C日程だった釧路公立大学を発見し、「ここだ!」と運命を感じ急遽志望校に選定し、合格に至りました。

入学してみると、釧路管内、道内出身者を中心に、東北から九州まで幅広く学生が集まってきていました。釧路は住み心地がよく、自分らしさを出しつつ成長できた4年間だったと思います。在学中はファストフード店で3年間アルバイトをしていて、サークルのようによく皆と集まっていました。ゼミでは3ゼミ合同で旅行をしました。今でも年賀状でつながっている方々もいます。

バブル崩壊後、特に女子には厳しい時代の就職活動の中、女性が活躍できる職場を第一に考え、現在の会社に入社し、23年目となります。新卒採用にも携わり、釧路公立大学の学内説明会にも参加させていただいたこともあります。結婚、出産を経て、現在は20代~50代まで幅広い年齢層の方の育成を行っています。

私がいた当時は、まだまだあまり知られていない大学でしたが、最近では道内外でも知名度も上がり、地道にコツコツと社会に貢献できる学生が多いという印象を持っていただけているように思います。30周年を機に、さらに釧路、北海道の発展の担い手として、様々な角度から関わりを持っていただけたらと祈念しております。



山本 美希子さん (旧姓 種)

卒業年／平成9年(第6期)

勤務先／東日本電信電話株式会社(東京都)
ビジネス開発本部 課長

「新たなものへの挑戦」に惹かれて

私が入学した当時、この大学が先進的だったのは「複数自治体の事務組合によって設立された日本で初めての大学」という点でした。大学という新たな装置は地域経済に好影響を与え、発展の一助となり得るのかというチャレンジな役割も担っていたものと理解しています。

ビジネスパーソンになって学生時代の学問が本当に役立ったなど感じているのは「マクロ経済とミクロ経済」という視点です。全ての企業・組織は、世界情勢の大きな変化をいち早く感じ取り、自分たちの事業をどう変革していくか、こういったマクロ経済的な視点に立って未来を創造して行く。一方、ビジネスは日々の収支がしっかり成り立っていなければ、未来など絵に描いた餅です。目の前のお客様ニーズに応えるため、限られたリソースを駆使して継続的な利益を出し経済循環を造る。これがミクロ経済だと思っています。学生時代の様々な教科やゼミでの学びを通じ、この両輪の視点を身につけられたことに感謝しています。

現在、私は、IT系の新サービス・新規ビジネスの企画開発をしています。特に最近ではAI技術を使った新サービスをスタートさせました。

プライベートでは夫と中学3年の息子との3人暮らしです。息子がいてくれたおかげで、仕事が辛い時には何度も救われましたし、仕事のおかげで、子育ての悩みを客観的な視点で乗り越えることができました。どちらも切り離せないかけがえのない私の人生です。今の時代の女性は、結婚未婚、子供の有無、親の介護など、人によって選択肢も環境も実に様々です。働く女性一人一人が、納得感ある人生を過ごせるようサポートしながら、これからも仕事に夢に、挑戦続けます。



天野 大輔さん

卒業年／平成11年(第8期)

勤務先／小樽商科大学
商学部経済学科 准教授

社会が求める人材の育成を

私が釧路公立大学に進んだ理由は、両親が退職後に北海道への転居を決めていたからでした。釧路での学生生活においては、静かな学習環境と比較的新しい設備の下で勉学に集中できたと思っています。

在学中の思い出として印象に残っていることは、ゼミのイベントで卒業前に網走に旅行したことです。残り僅かな学生生活を満喫することができました。

大学生活でやり残したと思うことは、より専門性の高い応用経済学の科目だけでなく、英会話の勉強もしておけばよかったということです。特にリスニングの大切さを感じています。

現在、私は小樽商科大学商学部経済学科で教鞭をとっています。釧路公立大学を卒業した後、北海道大学大学院経済学研究所に進学して研究を重ね、最終的には継続的に学んだ経済学の専門分野に関する研究職に就くことができました。小樽商科大学では、専門分野の研究活動、授業やゼミを通じた学生の指導および大学運営に関する各種委員会への参加を主な業務内容として、これらに対して並列して大学に貢献したいと思います。

この度、開学30周年を迎えられた釧路公立大学には、いわば道東の地方中核都市の「知」の拠点として、変化の激しい社会の要請(social demand)に対応できる人材の育成を継続してほしいと期待しております。

釧路の豊かな自然に魅かれ 野鳥研究のスペシャリストに



(写真左)

浦 達也さん

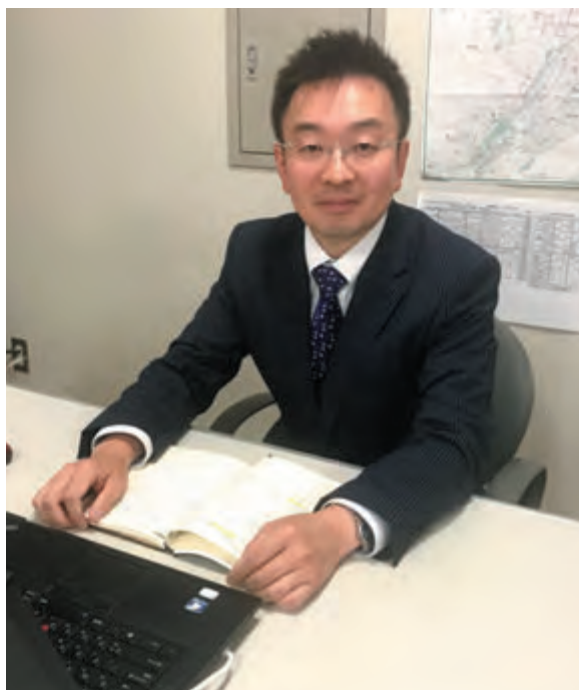
卒業年／平成11年(第8期)
勤務先／公益財団法人日本野鳥の会
(東京都) 自然保護室 主任研究員

釧路公立大学は、大学の近くに豊かな自然環境、特に有名な湿原(釧路・別寒辺牛・霧多布等)がたくさんあり、札幌出身の私はだんだんと道東の自然の素晴らしさに気付き、タンチョウやオオワシなどの野鳥を観察するようになりました。ゼミでは、環境教育について研究、卒業論文を書きました。そのような経験から、自然や野鳥に関わる仕事をしたいと思うようになり、実現させました。そして、今も湿地や草原の野鳥を中心に保護活動や研究を行っています。

在学中は、アメリカンフットボール部の活動に熱中しました。決して強いチームではありませんでしたが、部活動を通じて、大学の友人とは別に先輩や後輩と学生時代の時間を共有できたことは今も財産です。北海道学生オールスターに選出され、大きな競技場で試合できたことも学生時代のよい思い出です。

私は日本野鳥の会に入局以来、ずっと自然保護室という部署で、自然保護活動を行っています。2年前から、主任研究員を拝命し、今後は、日本野鳥の会の中でも調査研究のスペシャリストとして、特に外部に対し調査研究の成果をアピールしていくことが求められていると思います。

大学には、自然豊かな釧路地域の特色を生かし、また環境の時代ということもあり、もっと環境分野について学べる科目を増やしてほしいですね。可能であれば、数十人規模でも環境学科等を増設することを期待します。



富永 享志さん

卒業年／平成13年(第10期)
勤務先／株式会社柳月
販売営業部 札幌地区 課長

地域経済への継続的貢献を

私は将来、就職するにあたり経済学部がよいと考え、また、学費の面も考えて国公立大学を志望していました。幼少期に釧路に住んでいて、釧路に対して懐かしい思いもあり、釧路公立大学を志望しました。在学中、特に思い出に残っていることは2年間のゼミです。担当の萩原充教授には、今でも会いに行きます。ゼミ合宿、ディベート、卒論の苦労など数多くの思い出があります。

今思えば、簿記は資格を取るくらい勉強しておけばよかったと思っています。それに経済用語をしっかりと勉強しておくべきでした。社会人になってから、用語の意味がわからず苦労したことがありました。

私が勤務している柳月は、日々100種類以上のお菓子を製造販売しています。現在、新商品・季節限定イベント商品・販売促進対象商品の札幌地区分(地区内21店舗)の発注計画数立案・納品調整・売場調整を行う部署にいます。いわゆる、社内バイヤー的役割です。会社として力を入れて売りたい商品を、各店舗にて最大限販売してもらうために、計画・実施・調整をしています。直接売上に関わる仕事なので、とてもやりがいを感じております。

釧路公立大学は「公立」という立ち位置から、地元地域経済に貢献する教育機関であり続けてほしいと思っています。地元企業とのコラボレーションによる、新市場の開拓・新商品の開発を発信できる大学になると、とてもうれしいです。

卒業生インタビュー 11～20期



柴田 純宏さん

卒業年／平成18年(第15期)

勤務先／ホクレン農業協同組合連合会 管理本部(札幌市)
(平成29年8月から伊藤忠シンガポール会社へ出向)

オートバイツーリングで日本縦断の旅

私は札幌市の出身で、道内にある国公立大学ということで、釧路公立大学に進みました。入学してみると、釧路出身の学生が少なく、外から来た人たちは、皆一人暮らしや下宿をしていたため、新しい環境に馴染んだり、一から人間関係をつくることに懸命でした。月日が経つにつれ、友達や先輩、後輩が家族のような関係になり、強い絆で結ばれていたことが今でも私の財産になっています。釧路は大自然に囲まれた地域であるため、伸び伸びと生活ができました。また、冬の星空がとても綺麗だったことを今でも覚えています。

在学中はオートバイにのめり込み、特に大自然を感じるツーリングが大好きで、大学2年生の時に一人で日本縦断の旅をしました。3年生の時には、ツーリングの素晴らしさを共有したい、伝えたいという想いが強くなり、二輪会というサークルを設立しました。そこでの部長としての経験は、今でも自分の中の根底にあり、とても大切な思い出です。サークルメンバーとは今でも連絡を取り合う仲であり、よい刺激になっています。

現在、私は、ホクレン農業協同組合連合会で、北海道産の農畜産物やそれを原料とした加工食品を海外へ輸出する仕事に就いています。平成29年8月よりシンガポールに駐在し、実際に現地生活しながら、マーケットリサーチと北海道産商品の販路拡大に向けての業務を行っています。

普段、ビジネス上で釧路公立大学の卒業生に会うことはそう多くはありませんが、きっと多くの卒業生が全国各地の幅広い分野で活躍されていることでしょう。同業種、異業種を含め、同じ大学の卒業生のつながりは非常に貴重なネットワークです。大学にはもっと卒業生同士をつなぐシステムなどがあると非常によいと思います。そういったサポートを大学に期待します。

社会人になると、人とのコミュニケーションはより複雑になってくるとおられます。私は思い悩むこともありましたが、その度に大学時代の友達に救われました。また、在学中に仲がよい友達と卒業してから仲がよい友達は必ずしも同じではありませんので、在学中にかけがえのない友達を幅広くつくってください。



ライダーハウスにて



寺岡 広実さん (旧姓 門脇)

卒業年／平成15年(第12期)
勤務先／北海道警察
札幌方面厚別警察署
交通第一課

組織と市民の架け橋に

東北から来た私にとって、大学生活は、生まれ育った環境や年齢も異なる人と一緒に学び、ふれあうことで自分のアイデンティティがどのようなモノなのか改めて認識させられる機会を与えてくれました。その後の就職活動や社会に出てからも生かすことができたいと思います。

特に、ゼミで共に学んだ仲間とのディベートは思い出深いです。各個人の主義主張は別として、2グループに分かれてテーマに対しチーム戦で論じ合ったことは貴重な経験となりました。自分の立場や主張だけでなく、相手の主張やその背景も理解してこそ、論点に對した上手な切り返しができるのだと学びました。

現在、私は北海道警察で交通に関する業務をしています。組織人として組織に貢献することはもちろんのこと、組織の力で市民が安全・安心に暮らせることに寄与していると信じてまい進するのみです。警察官には今、組織と市民の架け橋となるよう、市民の声を吸い上げ、組織に反映させるように主体的活動が望まれていると思います。

釧路公立大学が開学30周年を迎えられ、卒業生が今後ますます活躍し、管外や道外の人にも広く認知してもらい、さらに大学が発展していけるよう願っています。私たち卒業生が大学で学んだことをそれぞれの地域で生かして、それを盛り立てていきたいです。



鈴木 圭介さん

卒業年／平成15年(第12期)
勤務先／鈴木圭介税理士・行政書士事務所
(釧路市)

起業するきっかけを与えてくれた

当時私は、社会科の教員志望で、地元の教職課程の取得できる大学で教員を目指そうと、釧路公立大学に進学しました。

大学に入学して、経済や経営、経理や税務の専門の学問を学ぶこととなり、その分野に惹かれ、今の職業を志す契機となりました。

また、私を支えてくれた多くの仲間や大学の教授、大学ではたくさんの人に出会えたことが、今の私の大きな財産となっています。

学生生活で特に思い出に残っていることは、部室で正月早々から勉強したこと、大学祭の出店コンクールで優勝したことの二つです。

現在、私は、自身で立ち上げた税理士・行政書士事務所で、地元企業の健全経営に関するサポート役として働いています。地域に密着した仕事に就き、釧路公立大学の卒業生として、地元に貢献できていることを誇りに思います。

後輩の皆さんの可能性は無限です。学生時代で得ることを大いに吸収して、社会に貢献する人材として活躍されることを応援しています。



佐々木 洋平さん

卒業年／平成17年(第14期)
 勤務先／釧路町議会議員
 韓国語講師

人生の転機となった韓国留学

私は地元が厚岸町尾幌で、自宅から通学するのに便利というのが理由で釧路公立大学へ進学を決めました。当時は、都会に出たいという考えや、釧路を離れなければ学べないという理由もありませんでした。厚岸の自宅から車で通学していたために、夜はなかなか友人と出歩くことができませんでしたが、ときどき友人のアパートに転がり込んで遊んでいました。

大学では、他地域から来た向学心の高い友人に出会えたことで、私自身大きな刺激を受け、講義に向き合う姿勢が変わりました。特に、私の大きな転機となったのは、交換留学制度を利用した韓国留学での様々な「人の考え方」との出会いでした。寮生活では韓国人、中国人、ロシア人と私の4人暮らしで、学生たちと様々な議論をすることで、外から見た日本を知ることができました。

現在、私は留学経験を生かし、韓国語講師として語学教室を経営しています。また、釧路町議会議員として現在2期目の若手議員として、地域を盛り上げるために様々な活動をしています。

釧路公立大学には、大学の特徴でもある「地域を理解し、地域の可能性を探求する」のさらなる実践を期待し、社会に出て「地域のために」と考える学生たちがより多く輩出されますことを願います。ぜひ、釧路地域の目線で社会・世界を見つめてください！



中山 雄介さん

卒業年／平成18年(第15期)
 勤務先／鹿島道路株式会社
 中部支店 名古屋営業所(愛知県)

学生生活を通じ成長できた4年間

私は愛知県出身で、大学はぜひ北海道で学びたいと考え、釧路公立大学を受験しました。釧路公立大学に進学して一番よかったと思うことは、アイスホッケーというスポーツに出会えたことです。アイスホッケー部に所属し、釧路ならではのスポーツに打ち込めたのは、自分にとってとても有意義な4年間でした。

また、在学中、二輪会サークルを設立し、ツーリングを通じて北海道の魅力を再発見できたこと、かけがえのない生涯の仲間ができたことも私の大きな財産の一つです。

釧路では、初めて一人暮らしをしたのですが、不自由な生活を体験して、これまで育ててくれた両親へ感謝の気持ちを持つことができました。大学では体育会会長を務め、人をまとめることの大変さを学べたことで、人間として成長できたと思います。

現在私は、学生課から紹介いただいた、鹿島道路株式会社名古屋営業所にて勤務しております。建設業の営業マンの業務範囲は大規模公共工事から私道・駐車場舗装など様々です。顧客拡大、既存取引先維持、取引の遠のいた休眠企業の再取引を主軸として行い、目標数字に向かい受注高の確保に努めます。現在建設業界は全体として若手が少なく、将来の管理職として活躍することを期待されています。

後輩の皆さんには、学業に限らず、遊び・自然観賞・サークル・ゼミ・アルバイト等、今しかできないことに全力を尽くしてください。



深井 昭さん

卒業年／平成19年(第16期)
勤務先／株式会社釧路内燃機製作所(釧路市)
 経理部

やれることは何でも挑戦!

釧路公立大学に進学したのは、親や高校の担任に「大学へ行け」と勧められたのと、自分の中では高校卒業後も釧路管内から出る気がなかったからです。それでも進学してみると、いろいろな経験ができ、充実した学生生活を送れました。進学したことで今の自分があり、振り返ると、その当時高校卒業後は就職という考えしか持っていなかった自分に、進学を強く勧めてくれた親と担任には感謝しかありません。

しかし、学生生活はあまり真面目だったとはいえ、ほぼ毎日パチンコ屋に行っていましたね。おかげさまで金銭に不自由なく学生生活を送れました(笑)。そのため、いろいろなことに挑戦でき、様々なモノを得ることができました。突然友達と札幌方面へ日帰りドライブをしたことなどは楽しい思い出です。

現在、私は株式会社釧路内燃機製作所の経理・総務の部署で、資金繰りや各種手続を行っています。自分自身の最大の使命は自分が退職するまでに、資金の管理をしっかり行うことだと思っています。

今思えば、大学で株・投資・保険・税金等の知識を学んでおけばよかったと思いますね。こうした生きた知識は世の中に出ると役に立つことが多いですから。

最後に、後輩へは、勉強も大事ですが、それ以外のことをもっと大事に、サークル・アルバイト・遊び・旅行等、やれることをたくさんやってほしい。大学時代にいろいろな経験をすることが社会人になったときに必ず生かされます!



津島 梨恵さん

卒業年／平成20年(第17期)
勤務先／イオンリテール株式会社
 イオン三好店(愛知県)

自分を成長させた学生新聞づくり

音更町出身の私には、車で2時間ほどの釧路は、とても身近な存在でした。高校入学時から「大学は釧路で勉強したい」という思いがあり、社会学系の授業が好きだったのも釧路公立大学を選んだ理由の一つです。

釧路は、夏は暑い日でも25度前後ですし、冬の雪もそれほど多くはありません。私は今、愛知県で仕事をしています。この地域特有の夏は暑く冬寒い、両極端な気候の中で生活していると、釧路の気候が懐かしくなります。

学生生活の一番の思い出は、3年生の時に立ち上げた“学生新聞局の活動”です。学内問わずたくさんの方と交流できたので、社会人になる前の準備という意味で、とても勉強になりました。局員全員が「1部でも多く新聞を発行する」という同じゴールを目指し、お互いに刺激を受けながら成長できたと思います。

私は現在、イオン三好店で、寝具やインテリア用品を扱う、ホームファッションのマネージャー代行をしています。お客様と接する売り場業務だけでなく、売り場のマネジメントも任されているので、大学時代に学んだことが生かしています。上司からは「さらに広い範囲を管轄できるようになると、自分のためにもなるよ」と言われていて、私もその期待に応えていけるよう頑張っています。

卒業生インタビュー 21～26期



川村 彩歌さん

卒業年／平成26年(第23期)

勤務先／ANA新千歳空港株式会社(千歳市)

グランドサービス部ラインハンドリング課

大好きな仲間と過ごせた4年間

大学進学にあたって、私立はお金がかかるので、札幌出身の私は道内の国公立がいいなと思っていました。経済・経営学に興味があり、特に経営学は社会に出て役に立つことが学べると思い、高校の先生に相談したところ、先輩が釧路公立大学に通っていたこともあり、周りからも勧められ進学を決めました。

入学間もないころは、全国各地から学生が集まってきていて、いろいろな方言が飛び交っていて、とても新鮮でした。釧路公立大学に入学して一番よかったことは、人に恵まれたことです。入学してすぐに知り合った友人たちとはよく気が合い、一緒にいるのが楽しくて、授業も皆で集まって受けたり、課題をやったり、授業以外も学内でおしゃべりをしたりしていました。

最初の2年間は下宿で生活していました。優しい先輩たちばかりで、大学祭で出店を出したり、遊びに連れて行ってもらったり、勉強も

教えてもらっていました。また、ゼミのメンバーにも恵まれて、ゼミの終わりにはよく打ち上げにご飯に行きました。

釧路は新鮮な魚介が多く、それもおいしいものばかりです。花粉症にも悩まされないのにおすすめです！唯一悪かったことは、冬は寒すぎて、油断をすると水道管が凍結するところです。朝、寒くて布団から出られず、何度、1・2限目の授業をさぼろうとしたことか(笑)。

サークル活動は仲のよい友人に、半ば強引に軽音楽部に誘われて入部しました。2年生になってから、その友人と1年下の後輩と3人でガールズバンドを結成して、3人で盛り上がっていました。今でも連絡を取り合うくらいの仲よしで、あの時軽音楽部に誘ってくれた友人には感謝しています。

現在、私はANA新千歳空港株式会社グランドサービス部ラインハンドリング課という部署におり、航空機の誘導や貨物・手荷物の搭降載、航空機の除雪、国際線キャリアのハンドリングなど、到着から出発までのすべてのハンドリング業務を行っています。最近では機長とヘッドセットと呼ばれる機器を使って連絡をとる、ヘッドセットオペレーターという業務も任されています。また、7月から航空機を出発する際に、自走できる位置まで持っていく、プッシュバックという作業の訓練が始まりました。プッシュバックはハンドリングの中で最も難しいですが、憧れの仕事なので一人前になれるよう頑張っています。

釧路公立大学の先生方、キャリアセンターの方、学生課の皆さんは本当にいつでも親身になって相談に乗ってくれます。授業のこと、生活のこと、就職活動のこと、不安なことがたくさんあると思います。一人で悩まずに、まずは相談してみてください。私はよく学生課の方に泣きついていました(笑)。

また、1・2年生のうちは難しいかもしれませんが、何か一つでも目標をもってほしいですね。ぜひ、自分が満足できる学生生活にしてください！



ゼミ集合写真(前列右から二番目)



鳩山 ちひろさん

卒業年／平成24年(第21期)
勤務先／北海道釧路明輝高等学校(釧路市)

多くの友人との出会い 何気ない日常がよい思い出

私は群馬県の出身で、幼い頃から両親に旅行で北海道に連れてきてもらっていて馴染みがあったのと、身近な先生が釧路公立大学の卒業生だったこともあり、この大学への進学を決めました。釧路がどこにあるかもわからないまま進学を決めましたが、私には運命のように感じました。新しい生活にわくわくしたのも鮮明に記憶しています。

釧路公立大学では、多くの出会いがありました。今ではそれぞれ地元や首都圏に離ればなれに暮らしていますが、今でも仲がよく、時間をつくって会っています。在学中、一番熱中していたのは、女子アイスホッケー部での活動です。スケートをやったことがない初心者で、大変なこともたくさんありましたが、全国大会にも出場し、釧路で開催された際には運営も行い、多くのつながりができました。

就職では、教授だけでなく学生課の方にも大変お世話になりました。私は一度就職した後に退職・転職しました。その時、教授の支援がなかったら人生に失望して、今頃どうなっていたか…(笑)。

現在、私は北海道釧路明輝高等学校で地歴・公民科の教員として働いています。受け持つ授業は毎年変わりますし、担任業務もあります。学校のみならず、保護者の方や地域の方からも期待されていると感じ、日々業務に当たっています。

今日のような予測不能な時代を、これからの未来を担う生徒たちには、たくましく生きてほしいと願い、また、よりよい社会にすべく、立派な社会人になってほしいです。私のような社会科の教員は、そうした生徒を育てる重要な役割を担っていると思います。



佐藤 照智さん

卒業年／平成26年(第23期)
勤務先／福島県相双農林事務所
企画部
(福島県農林水産部出先機関)

被災地の復興に向け頑張っています

釧路公立大学が開学30周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

私は生まれも育ちも福島県で、縁があって釧路公立大学に進学しました。大学在学時は、準硬式野球部に所属し、全国大会を経験しました。また、教職課程を履修し、母校での教育実習に行きました。あるいは、友人たちと厚岸の牡蠣祭りや阿寒湖、知床に行ったりと、たくさんのよい経験をさせていただきました。

やはり、私の進路に一番の影響を与えたのは、東日本大震災及び原子力発電所事故です。福島県出身として、福島県の復旧・復興に携わりたい一心で、福島県職員の道を選び、今まさにその現場で働いています。私が現在所属している福島県相双農林事務所は、福島県の太平洋沿岸部の相馬地域と双葉地域の農林業の復旧・復興そして振興を担う事務所です。ここで私は、農業の6次産業化や風評払拭に向けた取組に関わる仕事を主に担当しています。私の力は微々たるものですが、少しでもこの地域が元気になるように、日々業務に励んでいます。

最後に、釧路公立大学に在学する皆様には、長いようで短い大学生活を有意義に過ごしていただきたいと思います。そのためには、まず、いろいろなところに出掛け、体験したり、新しいことにチャレンジしてみてください。今はインターネットで検索すれば様々なことを知ることができますが、実際に行ってみて、やってみて、初めて知ることや感じるものがたくさんあります。「百聞は一見に如かず」です！



佐々木 凌平さん

卒業年／平成26年(第23期)
勤務先／株式会社東北銀行
花巻支店(岩手県) 渉外課 書記

震災の中、手を差し伸べてくれた大学

進学にあたっては、国立大の経済学部を目指していましたが、進学も間近というところで東北全域が大きな震災に見舞われ、進学を悩む中、最初に支援の手を差し伸べていただいたのが釧路公立大学でした。おかげで、何不自由なく入学までたどり着くことができました。

他県から来た私にとって、北海道はもとより、釧路は新鮮な地でした。特に食生活には大変恵まれ、10キロも体重が増えてしまいました。

在学中、特に思い出に残っていることはゼミでの活動です。同じ事を学びたいと集った仲間たちと、課題を持ち探求していくことがよりよい学びになりました。反面、在学中にやり残したと思うことは、もっといろいろな所に行っておけばよかったです。自由な時間がある分、国内だけでなく外国にも行って、普段はできない体験しておくべきだったと思います。

現在私は、東北銀行花巻支店渉外課で勤務しています。個人・法人問わず多くのお客様を訪問し、預金や融資、資産運用と様々なご相談に対応させていただいています。お客様との会話の中から要望を聞き出し、お客様の意向に沿った仕事ができるよう日々努力しています。

最後に、後輩の皆さんには、自由な時間がある学生生活を謳歌してほしいですね。勉強はもちろんですが、いろいろな場所を訪ね、触れ合うこと、そこでの体験を大切にしてください。そうすることで価値観が広まり、人として成長できると思います。



佐藤 雄紀さん

卒業年／平成27年(第24期)
勤務先／北海道旅客鉄道株式会社 釧路駅

地域のために活躍できる人に

私は当時、地元の大学で学びたいという思いが強く、また、経済についても興味がありました。地域の方々に支えられている釧路公立大学で学び、そこで経験したことや学んだ知識を生かして地元で貢献したいという気持ちをもって進学しました。

学生数もそう多くはない大学でしたので、友人との繋がりを広く深いものに築き上げることができました。アウトドア好きの私は毎年、夏休みの恒例のキャンプをはじめ、いろいろなところに行きました。夜中まで騒いで怒られたこともあり、苦い思い出の一つでもあります。

現在は、JR釧路駅にてお客様に切符を発売する出札業務や、改札業務、電話対応等の内勤業務を行っています。まだ入社3年目ですが、釧路駅は若手社員が多く、指導する場面が多くなってきました。自分自身まだまだ勉強中ですが、今まで学んだことや経験したことを後輩たちに伝え、指導することが私に求められていることだと自負しています。

後輩の皆さんには、大学が地域の方々に支えられていること、また、その大学で自分の学びたいことを4年間学べる立場にいるということを忘れないでほしいと思います。社会に出たとき、強く求められる人材になれるよう、毎日を大切に充実した大学生活を過ごしてくださいね。



早苗 杏莉さん

卒業年／平成27年(第24期)
勤務先／株式会社北洋銀行
千歳中央支店(千歳市)

大学での出会いや思い出は一生の宝物

私が釧路公立大学に進んだ理由は、経済学の専攻を希望していたことと、経済の単科大学なのでより専門的な知識を身につけられると考えたからです。また実家の帯広からもそう遠くないことも選んだ理由のひとつです。

振り返ると私の大学時代は、人に恵まれた学生生活だったと思います。学生数も少なかったので、学内を歩いていてもほぼ全員が顔見知りでしたし、ゼミ、サークル、その他にもたくさんの友人の輪を作ることができたと思います。教授や学生課の方との距離も近かったです。よく研究室にもお邪魔していましたし、親身に相談に乗っていただきました。

釧路は、札幌のように遊ぶ場所やお店はそう多くありませんが、自然や美しい景色を巡るドライブなどはとても楽しかったですね。また、ゼミでは組織行動論というテーマで、人を媒体としたPR活動を学内で行い、地元釧路の飲食店の売り上げにも貢献できたのではないかと考えています。

現在、私は北洋銀行千歳中央支店に勤務し、融資業務を担当しています。入行して3年目になりますが、これまで営業課、資産運用に関わるコンサルティング課とさまざまな経験をさせてもらっています。銀行の仕事は、入行前は事務的なイメージが強かったですが、実際働いていると、お客様とのコミュニケーション力や提案力など、いろいろな能力が求められるのだと感じます。

大学での出会いや思い出は一生の宝物になります。ぜひ多くの人に出会って、様々な感性に触れて、いろいろな場所へ行って、たくさんの経験をしてください。それを存分にできるのが、大学の4年間だと思います。



矢萩 樹さん

卒業年／平成29年(第26期)
勤務先／株式会社ドーコン(札幌市)
環境事業本部環境保全部

自然あふれるフィールドで研究に熱中

私が釧路公立大学に進みたいと思った理由は、大学案内のパンフレットで興味深い研究室が紹介されていて、ぜひここで勉強してみたいと思ったからです。道内出身の私にとっても釧路は海や川、湿原などの特徴的なフィールドが近く、自然が好きな私には最高の環境でした。大学で過ごした4年間、卒業研究を含めて、鳥類の調査や研究に熱中できたことが一番の思い出です。

現在は、株式会社ドーコンという札幌にある総合建設コンサルタント企業で、主に公共事業に関わる環境調査業務に携わっています。会社から期待されていることは、技術者として、専門である鳥類を中心とした野生生物と人間が共生できる社会を目指していくことだと思っています。

ゼミ担当教員から



釧路公立大学経済学部長 小林 聡史 教授

矢萩くんは、私のゼミの直近の卒業生で、特に優秀な学生でした。ゼミに入る前から存在感があり、講義で鋭い質問をしてきたりして、私も少し緊張した面持ちで講義に臨んだことを覚えています。卒論も100頁を超える超大作で、しっかりと調査し、ほとんど直すところがありませんでした。北海道を代表するコンサルタント企業に、難関を突破して入社されて、今後ますます活躍することを願っています。